



令和2年9月1日

No.29号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸 哉

<児童数 205名>

TEL 623-6019

いちよう兄弟体験学習(9/10)の スローガン決まる！

～8/28(金)のクルーズ班会・全体会にて～

“クルーズ班全員で楽しみ、おたがいの事を知るいちよう兄弟にしよう”

先週の金曜日に、クルーズ班全員による全体会がもたれました。6年・鈴木拓真実行委員長、栗原晃副実行委員長、小池亜花梨さん、佐藤結佳さん、5年・木村彩月羽さん、佐藤楓音さん、細谷康真さん、水野幸之新さん、佐藤露魅王さんが中心になり、クルーズ全体会を進めてくれました。自然の家での活動が楽しみです。



実行委員がスローガンに込めた願いや思い、価値付けを「いちよう兄弟便り No.1」に読みとることができます。お便りより抜粋してみます。

『1人1人の力を合わせ、「全員で」1つのことをやりとげます。「誰か1人でも欠けては絶対にできないことを活動にもいれました。ふざけて楽しいのではなく、全員で1つのことをやりとげた達成感を全員で感じる事が私達の考える「楽しむ」です。楽しいことをして仲良くなりたいと思いました。そうじを一緒に行なったときの印象といちよう兄弟の印象では、全くちがうかもしれません。おたがいの本当の性格を知る事で、そうじなどでの接し方を変える事ができます。なので、クルーズ班全員で活動するいちよう兄弟では、「おたがいの事を知る」を大切にしたいと考えました。』

本質を突いています。意欲的に考えて、考えて・・・、考え抜いての提案です。ここまで、本質を議論して提案する素晴らしさ！流石はいちようの子どもたちです。

コロナ禍においても、これまで当たり前とっていたこと、当たり前としてきたことの本質が問われています。「何のため」を問うことは、「生きる力」になります。そして、その先の「共に生きる力」を育みます。わかったつもりで、方法だけを議論することが多い中であって、「尊い学びの姿」に感動し、嬉しくなりました。